

自己評価力の育成を図る指導の工夫

— 第4学年 日本各地の自然とくらし —

大脊戸 若光

1. 社会科の学習活動と自己評価力

何を学習するのか、どうやって学習するのか、どれだけわかって、何が分からないのかなど、学習の主体である児童自身にこそ自分の学習に対する自己評価ができていて、生きた学習になる。

社会科の教科特性として、何を学習し、どれだけわかったかを自己評価しにくい面がある。そこで、自己評価しやすい指導過程の工夫や自己評価の方法を指導する必要がある。評価は、学習者である児童自身のものとする。教師がどのような評価を繰り返しても、それらが児童一人一人に反映されねば意味がない。学習活動において、「評価と学習の一体化」「評価は学習そのもの」と考えて「学習過程の中で自己評価力をどう育てるか」を研究課題としている。

これまでも、児童の学習意欲の向上のために、観点別達成目標の設定や学習内容に応じた評価を実施している。しかし、それらについて児童自身がどれだけ成就感を持ったかという視点でのとらえは弱かった。本実践では、児童自身の自己評価と学習への成就感に視点をおいて、学習展開を図りまとめてみたい。自己評価力の育成を目指しても、その機会がなければ、児童は自己評価力をつけることはできない。学習活動の中で自己評価の機会を出来るだけあたえ、その方法を身につかせながら、質的な向上を図ることが大切である。

2. 「予想」と自己評価

本実践では、「予想とその結果」を研究の焦点としたい。社会科の授業において「……について予想しましょう。」「予想を確かめましょう。」とは、よくされる発問である。課題をとらえ予想や仮説を学習計画にそって検証し社会事象への認識を形成していく学習過程が社会科の一般的なものとされているからである。したがって、予想には、その児童の多くの能力が総合的に凝縮されていると考える。それゆえ、その予想の結果について、その児童がどううけとめたかを知ることは授業の成果や自己評価力の育成の方策の一つと考える。

(図表 I)

右の表は児童が学習過程において自分の予想を持ち確かめていくための能力を表わしてみた試案である。具体的な実践の中で、児童

予想とその結果を自己評価するための能力 (追求力)	
課題把握力	社会事象の中から、疑問や矛盾を発見する能力 疑問や矛盾を整理して、何が学習問題であるかをとらえる能力
計画立案力	経験や知識をもとにして予想をたてる能力 予想や仮説に根拠をもつ能力
調査検証力	記述や資料が表わしていることを読み取る能力 予想の当否、限界、問題点などを判断する能力

自身の「予想」に対する自己評価をもとに、その児童の追求力のあり方を明らかにできればと考えている。

3. 学習内容

(1) 単元 日本各地の自然とくらしー「あたたかい土地と寒い土地」ー (第4学年)

(2) 単元について

・本単元は、気候や地形の条件から見た国内の特色ある地域の事例学習である。これまでの広島市や県を中心にした学習から、本格的な国土理解に向かう学習の結節点にあり内容・指導方法の両面について重要である。

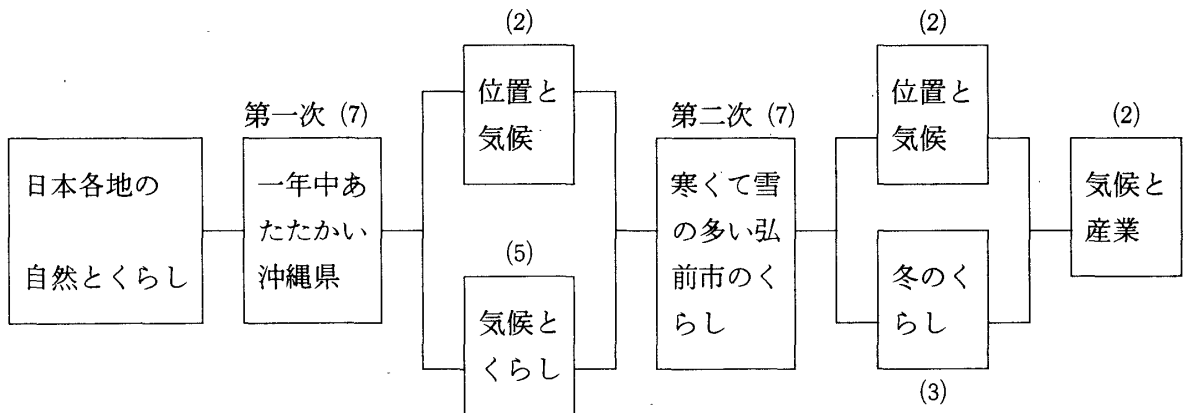
・知的興味の高まってきているこの期の児童は、学習対象となる事柄について、本で調べたり、資料を収集したりすることに意欲的である。本単元では、間接的な資料の活用が中心になるが、学習の目的を踏まえた資料活用能力を養いたい。

(3) 指導目標

①国内の地形や気候の異なる様々な土地に住む人々は、自然環境に適応しながらくふうして生活していることをとらえさせる。

②地図その他の資料を効果的に活用して、自然環境の特色と人々のくらしの関連などについて考えさせるようにする。

(4) 指導内容と計画……………14時間 (本時 第一次 第1時)



(5) 本時の学習と自己評価

本時は、二つの学習活動によって構成されている。二つの地方の写真を見比べて違いを見つける活動と月別平均気温のグラフから沖縄の暖かさを確かめる活動である。児童の自己評価力を高めていくためには、その際の自分が考えた学習の歩みをノートにきちんと表現させることが大切な条件の一つである。この時期から高学年での学習は、間接資料をめあてに即して読み取ることによる学習が中心となる。問題に気づく学習、問題を明確にする学習、追求する学習等それぞれにおいて、自分の考え、人の意見、修正された考えなど各自が把握できるような授業を意図している。本時においても、児童が学習について自己評価できるように学習活動のステップを設定している。

4. 本時の学習活動と自己評価の実際

(1) 本時の目標 沖縄県は、一年中あたたかいことを理解させる。

(2) 準備 写真, 平均気温のグラフ, 日本地図

(3) 1時間の学習の流れ

① 二つの地方の写真を見比べて違いを見つける。(那覇市と札幌市)

○大単元と小単元の導入であるので、「気候によるくらしの違い」の問題に気付かせるために次の順序で写真を提示して比較させた。

① 2月の北海道の写真を提示



(2月の北海道)

(2月の沖縄県)

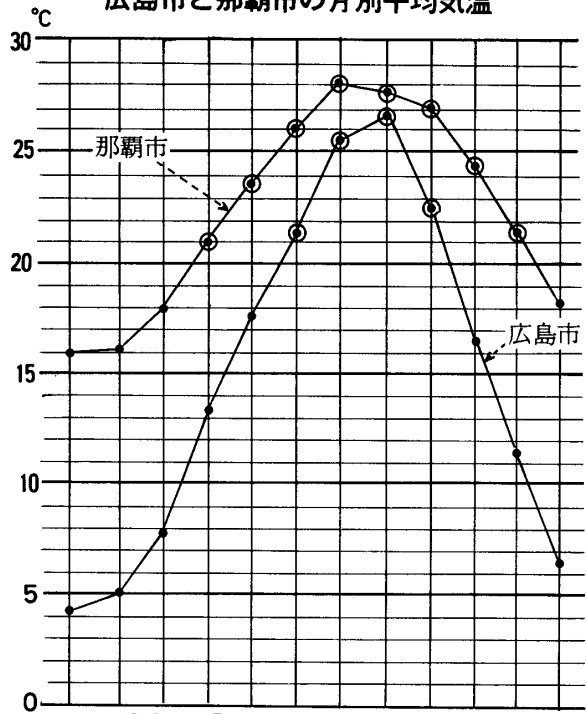
(板書) ちがいは

- ・かかれた木
- ・花がさいた木
- ・雪と氷
- ・雪や氷はない
- ・あつぎ
- ・うすぎ
- ・スケート
- ・遊びのちがいは

寒い

暖かい

広島市と那覇市の月別平均気温



広島市 4.3 4.9 7.8 13.3 17.6 21.2 25.6 26.8 22.8 17.0 11.5 6.6
 那覇市 16.0 16.4 18.0 21.0 23.7 26.1 28.1 27.8 27.1 24.3 21.3 18.1

(板書)

冬でもあたたかい沖縄県

- ・1年中15℃以上の気温
- ・11月でも泳げる。
- ・1月は、広島と11.7℃も差がある。
- ・12月は、11.5℃の差がある。
- ・沖縄県は、気温の変化が小さい。
- ・最低気温を知りたい。

- ② 2月の沖縄県の写真を提示
- ③ 写真の都道府県と位置を確かめさせる。
- ④ 写真を比べて、ちがいをノートに書き出す
- ⑤ 発表し合って、確認する。

←「二つの地方の写真の違いを見つけよう。」

- 自分の学習結果について、評価できるようにノートに個条書きにさせ、気付かなかった事柄については、書き加えるように指導した。

チェックポイント1 A君のノート

自分の見た事	<ul style="list-style-type: none"> ・雪がつも、ているけど沖縄にはつも、ていない。 ・北海道の木はかれていますけど沖縄の木はかれています。 ・北海道の子供はたくさん服を着ているけど沖縄の子供はあまり着ていない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・あそびがちがう ・北海道には氷がは、ているけど沖縄にはは、ていない。
気候のちがひ	<p>北海道 ← 気候のちがひ → 沖縄</p> <p>寒い あたたかい</p>

- これからは、日本でもっとも暖かい地方の代表として、「沖縄県の暮らし」を学習することを説明して、その「暖かさ」を問題にする。

- ① 「暖かさ」をもっと明確にする方法を問う。
- ② 気温についての資料を見つけさせる。
- ③ 月平均気温について説明する。
- ④ 両市のグラフを比較させる。
- ⑤ 川や海で泳げる20℃以上の月に注目させる。

←「那覇市と広島市の気温を比べて暖かさを確かめよう。」

- 比較して「わかったこと」を記述させる。

チェックポイント2 A君のノート

ほかの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県は一年中15℃以上である。 ・沖縄県は7月が一番温、たかいいけど、広島は8月が一番あたたかい。 ・最高の差が、約17あった。 ・広島の方が上がりさがりが大きい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・11月でも泳げる。 ・沖縄では広島で言う気温の冬がない。 <p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄は前から温かいと思、ていたけど、一年中15℃以上わかった。

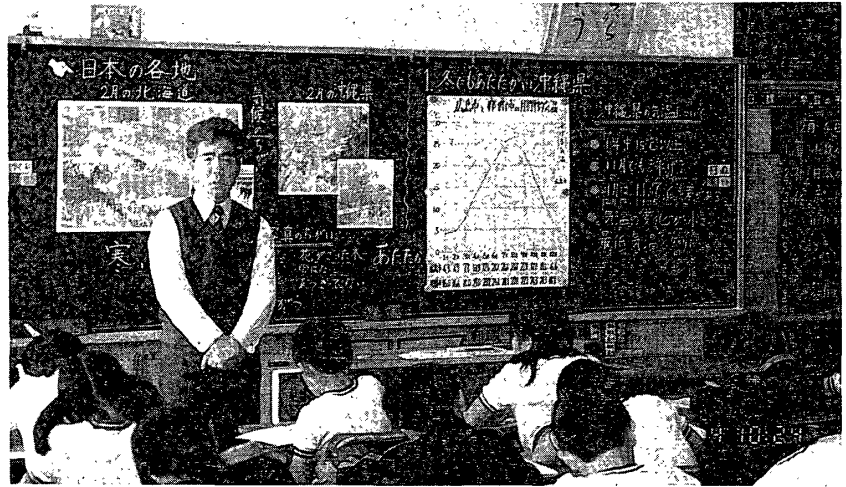
(4) 二つのチェックポイント」と自己評価

A君のノートを学習後に読むと、彼なりに自己評価しながらノートづくりをしていることがわかる。本時における2回のチェックポイント（その時間での自己評価の場面を私と児童の間で、そう呼んでいる。）における板書とH君のノートを読み比べると、彼が自分の気付いた事柄の当否を確かめながら、友達の気付きを書き加えていることが分かる。児童の自己評価力を高めるためには、学習活動の中で、自分の考えた事柄をフィードバックして吟味したり、友達の考えと比較したりできる学習指導が大切であろう。その条件としては、次のことが挙げられる。

- ア. 学習過程にフィードバックできる場面があらかじめ予定されていること
- イ. 自分の気付きや考えをノートに記述できる時間が保障されていること
- ウ. ノートに自分の考えとみんなで話し合っ確認できたことが区別して書かれていること
- エ. 学習過程にそったノートづくりの指導と評価を継続すること

② 次時は、沖縄県の気候（降水量・台風）について調べ、それをてがかりに人々の暮らしを各自で予想する学習に入った。

その際、広島市とのちがいや三つの観点（産物・衣食住・仕事）を示唆した。



5. 単元を通しての自己評価

(1) 個の予想

沖縄県の気候をもとにして、児童は、次のように「暮らしの予想」をしている。

B君

ぼくの予想	
<p>◎ あたたかい所だから、風とおしの良い家づくりだろう。</p> <p>◦ 降水量が多いから、ていぼうなどがし、かりしているだろう。</p>	<p>(○ 印は、予想が確認された項目である。)</p> <p>◎ あたたかい所だから、木も大きくたくさんそだつだろう。</p> <p>◎ 周りが海だから、漁業をする人が多いだろう。</p>
<p>◎ あたたかい所でできる物が産物だろう。</p> <p>◎ 台風もよくくるから、風やどにづより家づくりをしているだろう。</p>	<p>? 森林が多いから、動物もたくさんいるだろう。</p> <p>? あたたかい所だから、そうめんなどつめたい物を食べるだろう。</p>
<p>◎ あたたかい所だから、あまりあつぎを着る人がいないだろう。</p>	<p>◎ あたたかい所だから、海で泳ぐ人が多いはずだから、海水よく場が多いだろう。</p>

予想した事柄を記述させる場合、「……だから、……だろう。」「……なので、……だろう。」の文形式で表現させることにより、予想の根拠を書かせることや内容が推測であることを意識できるように指導している。

(2) みんなの予想

あたたかい沖縄県のくらしの予想 (4年2組の場合)

図表Ⅱ

<p>気 候</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬は雪がふりにくいと思う。 ・8月ごろ雨がよく降るのではないか。 ・沖縄は南の方にあるので、台風が多いだろう。 ・気候があたたかいので、動物は冬眠しないと思う。 ・気候があたたかいので、虫が多いのではないか。(蚊も多いだろう) ・季節がはっきりしないのではないか。 	<p>着るもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セーターは着ないだろう。 ・うすい物を着るのではないか。 ・冬は長そでくらいしか着ないだろう。 ・冬、手ぶくろはつけないだろう。 ・かぜをひく人が少ないのではないか。 ・衣がえがえないと思う。
<p>産 物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきびがとれるのではないか。 ・パイナップルがとれるのではないか。 ・木の実の汁を飲むことができるのではないか。 ・店が少ないのではないか。 	<p>人々の仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業がさかんだと思う。 ・海にかこまれているので、海に関係する仕事をしているだろう。 ・パパイヤ・やしの実を栽培しているのではないか。
<p>住まい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑いので、窓の数が多いだろう。 ・台風で物がとんできても窓が割れないように、窓には鉄ごうしがついているだろう。 ・家の屋根は四角い(平たい)のではないか。 ・家が低いのではないか。 ・こたつはしないと思う。 ・家はコンクリートでできているだろう。 ・だんぼう用のエアコンは使わず、クーラーだけあるのではないか。 ・水ためタンクがあると思う。 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄にも方言があるのではないだろうか。 ・今でもアメリカの基地があるだろう。 ・今もひめゆりの塔があるだろう。 ・ホワイト・クリスマスはないだろう。

児童のノートをもとに、予想をまとめてやる。時には、児童の名前も書き添えてやると学習意欲は、いっそう高まる。この内容を読み取ることによって、何を学習し確かめていくか、教科書のどこに説明や資料があるかを見付けようとする学習姿勢が強くなってくる。

(3) 予想の検証のための学習内容

以後の学習は、各自で予想を確かめるための個人学習と一斉学習を交互に行なった。一斉学習では、主に資料の見つけ方やNHKの学校放送用のVTRの視聴をした。教科書とVTRの内容は、次のとおりである。

教科書(新しい社会4下)1年中あたたかい土地のくらしー沖縄島ー

- ・南の島、沖縄島 ・寒くない冬 ・長い夏と台風 ・季節とくらし ・住いのくふう
- ・とくしょくのある作物 ・新しい農業 ・地いきの問題

VTR (NHK学校放送) 暖かい地方「南の島々」(沖縄の人々のくらし)

6. 自己評価表の作成

図表Ⅲ

(1) 記録化による自己評価

児童に予想させた場合、必ず検証させることが社会科の追求力を育てる上では、不可欠なことである。しかし、個々の児童は、多種多様な内容の予想をするので、その一つ一つを一斉学習で取り上げることも難しい。

そこで、個々の児童が、学習後もう一度単元全体をフィードバックしながら、何が分かり、何が違っていたか、未解決の事柄は、何かを確かめさせるために右のような自己評価表を作成した。

B君 君の予想とその結果についてたずねます。

あたたかい地方のくらし (沖縄県)						
予想の数	(10)					
予想の種類	気候	産物	住い	衣服	仕事	その他
結果	○	○	○	○	○	○
点数	(60) 点					

D君

君の予想とその結果についてたずねます。

あたたかい地方のくらし (沖縄県)						
予想の数	(15)					
予想の種類	気候	産物	住い	衣服	仕事	その他
結果	○	○	○	○	○	○
点数	(90) 点					

○→◎は予想が当たったこと、○→×は予想が誤りだったこと、○→?は未解決であることを表わしている。B君の自己評価は、3ページ下段右の予想のノートの記述とよく対応していることが分かる。彼の課題把握力や検証力の確かさがみとれる。また、D君の場合は、予想した内容の分類に当たってもう一度、内容項目を明記している。いずれにしても、このような評価活動をすることによって、自分で課題をつくり解決していく学習の方法や楽しさが児童の感想からうかがえる。

E……………自分のやった勉強の結果に、自分で点をつけるこのやり方は、わかりやすくて、テストよりも楽しい。これからもやりたいです。

F……………この社会科アンケートは、楽しいし勉強する力が自分でわかるので一石二鳥だ。

G……………この予想とその結果を確かめるやり方は、良いと思います。自分にどのくらいの予想する力があるか、それを確かめる力があるかがよくわかります。

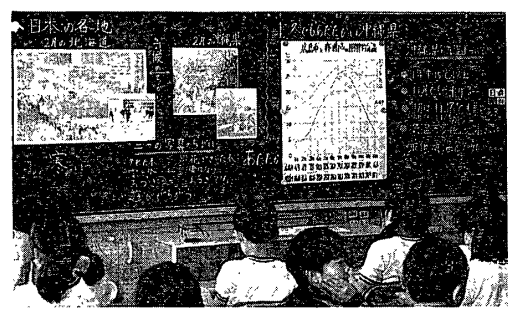
H……………予想したことを教科書やビデオで確かめました。教科書やビデオもいっしょうけんめいに見ました。私の考えたことがどこで出てくるかと思いました。あたって楽しく、ちがってよくわかる勉強でした。

I……………点数をふやすためにも、あたるかくりつをあげるためにも、たくさん予想したい。

次の「寒い地方の暮らし」の学習では、予想はいっそう具体的になり、検証も的確さを高めていたB君のノートの記述を紹介しておく。

寒い地方の暮らしの予想と結果（教は教科書 ビはビデオ）

◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。
◎寒い地方だから、冬は雪がふりまらうな。	◎寒い地方だから、夏は暑くない。



(学習後の板書)

7. 実践研究の結果

- (1) 自我の発達してきたこの時期の児童にとって、自己評価の活動は、学習意欲や興味・関心を高める上で有意義であった。
- (2) 学習を自己評価させるためには、学習活動にそった自己記録としてのノート指導の継続が大切である。
- (3) 児童がフィードバックできる自己評価とは、学習内容そのものに対する自己判断を促すような自己評価表等の工夫も必要である。
- (4) 学習活動そのものが自己評価の過程となるように指導計画や指導過程を組織することが大切である。

参考文献

「自己評価」(図書文化・安彦忠彦・1989)
 「自己教育力を育てる」(ぎょうせい・学校改善実践全集・1989)
 「小学校社会 4下」(各社の新年度用教科書)